



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 66

技術開発の動向はコソボ共和国を地球地図に統合した

ムラト・メハ教授・博士
コソボ地籍局最高経営責任者



筆者

デジタル分野における技術革新がさらに大幅に進展し、それにより環境とともに地籍に関連し、土地についての精度と迅速なサービスの達成の面で空間データ管理が恩恵を受けるようになりました。今世紀の初め、我々の地球の住民数の増加に加え、地理データの価値と重要性が計り知れなく高められました。明確な技術動向は、国民が土地に対し意識を高め、また興味を持つようになったこと、また責任の増大や反映された透明性等、コソボに明確な影響を及ぼしました。

それぞれ、コソボ地籍土地情報システム (KCLIS) は司法とグラフィックの要素間の関係を文書に表しました。また、KCLIS はデータの流れて迅速で質の高い安定したサービスを地籍に提供しました。そのため資源データの作成に向けた貢献とはなっていません。

さらに、人々と土地との間の関係を管理することは常に複雑で不安定な問題であるという特徴を持つため、地図作成の必要性を引き起こしました。地球地図プロジェクト (GM) は、地球を理解し、地球変動や影響に気づくためのグッドプラクティスを可能にすることにより、様々な地図の利用者や専門家にこれらの点で大きな支援を行い、影響を及ぼしています。空間データ基盤は、NSDI を通して国家レベルで管理され、土地管理に関連する地方自治の意思決定のための最高の情報として用いられる一方で地球規模では地球地図をとおして管理されています。小さな国々は地球地図のような大きく重要な地球規模のプロジェクトへの参加に満足しています。

Republic of Kosovo in figures:



AREA	10 908 km ²
BORDER LINE	744 km
CADASTRAL ZONES	1302
MUNICIPALITIES	38
MUNICIPAL CADASTRAL OFFICES	38
GEODETIC NETWORK REFERENT POINTS – 1st ORDER	32
GEODETIC REFERENT NETWORK POINTS – 2nd ORDER	397
CADASTRAL PARCELS	2 million
OWNERS	460 000

そのため、コソボ共和国は2011年8月19日に地球地図プロジェクトの一員となって以来、コソボ地籍局は無条件の貢献により、地球地図で確立された必要とされる基準を満たしています。大きな喜びと尊敬をもって、私たちは日本政府が地球規模で非常に価値のある重要な地球地図に資金を提供していることに非常に感謝しています。

国連地球規模地理空間情報管理（UNGGIM）杭州フォーラム及び アジア太平洋地域 GIS 基盤常置委員会（PCGIAP）理事会報告

河瀬 和重

国土地理院企画部国際課長



UNGGIM 杭州フォーラム参加者

5月24日～26日にかけて、国連地球規模地理空間情報管理（UNGGIM）杭州フォーラム及びこれに併催して PCGIAP 理事会が中国杭州市にて開催されました。同会合には24カ国の国家地図作成機関及び関連する国際団体から106名の参加があり、日本国からは村上地理空間情報部長（PCGIAP 副会長）、松坂国際観測企画官（PCGIAP WG1 座長）ほか2名が出席しました。

24日から25日にかけて開催されたフォーラムでは、開会式において、国連統計部長、中国国家測繪地理情報局長（国土資源部副大臣）、浙江省副知事、国家測繪地理情報局副局長の挨拶がありました。

その後、以下の6つのセッションについて、取組紹介の基調講演と共に議論がなされました。

「地理空間情報管理の将来トレンド」

英国陸地測量部長から、5～10年後の将来ビジョンペーパーの作成状況について説明があり、中間ドラフトを8月の第二回専門家委員会に提示し更に意見を募るとともに、2月の第二回ハイレベルフォーラムにて最終文書を提示予定と報告がありました。またこの際、Rio+20において開催予定の、地球地図を含む地理空間情報に係る2つのサイドイベントの開催案内が紹介されました。

「制度・組織上の調整における課題トレンド」

香港から政府間のデータ共有の困難性克服の事例が、フィンランドから INSPIRE 及び EuroGeographics の取組参画状況が紹介され、他機関に対しデータ共有を強制する法規の設定の是非等について議論がありました。

「新しい測地参照系の展開」

日本から東日本大震災による基準点再測量及びアジア太平洋地域の測地参照系構築の取組について、オーストラリアから GGOS (Global Geodetic Observing System) の取組について紹介があり、UN-GGIM と GIAC (GGOS Interagency Committee) との連携の可能性について提起がありました。

「データ品質担保の枠組みの考慮」

ニュージーランドから地籍データの品質管理の事例、韓国からクラウドソーシングによる地理空間情報整備における品質管理の現状について紹介があり、現行の ISO 19XXX シリーズに基づく品質管理の枠組みの課題等について議論されました。

「データ共有及び普及の新しいモデル」

フィリピンから Web 上での地理空間情報共有の取組とともに今後の課題と将来傾向について紹介があり、英国からは陸地測量部のビジネスモデルについて紹介がありました。不特定多数によるボランティアベースのデータと国家地図作成機関によるオーソライズされたデータとの整合・共存について問題提起がなされました。

「地球規模の地理空間情報に係る倫理規定」

国連統計部長がモデレータとなり、そもそも倫理規定が必要か、必要であればそれにどのような項目を入れ込むべきかについて議論されました。その結果、概ね必要との意見により、第2回 UNCE-GGIM において WG を設置し、第2回 GGIM ハイレベルフォーラムにおいて規定草案を提示した後に、第3回 UNCE-GGIM での規定採択に向けて取り組むこととなりました。

フォーラムの最後に総括パネルディスカッションを行い、本フォーラムのアウトカムを取りまとめました。

翌日の26日に開催された PCGIAP 理事会においては、10月に開催予定の第19回 UNRCC-AP に提出予定の報告書作成状況について各 WG 座長から報告があった後、第19回 UNRCC-AP のプログラム案について議論しました。これを受け、“UNGGIM vision for Asia and the Pacific Region” というテーマで関係資料を作成することとなりました。

ケベックにおける GSDI13 及び ISCGM 非公式会合

福島 芳和
国土地理院応用地理部長
ISCGM 事務局長



GSDI13 でのテイラー委員長

第13回全地球空間データ基盤世界会議 (GSDI13) は5月14日～17日までカナダ・ケベック市のケベック会議センターで開催されました。本会合のテーマは空間情報活用政府、産業及び市民でした。ジョー・オリバー・カナダ天然資源大臣が出席者全員に歓迎の意を表し、カナダにおける主要なパイプライン及び水力発電に関する環境問題等、様々な利用における地理空間情報の重要性について講演を行いました。

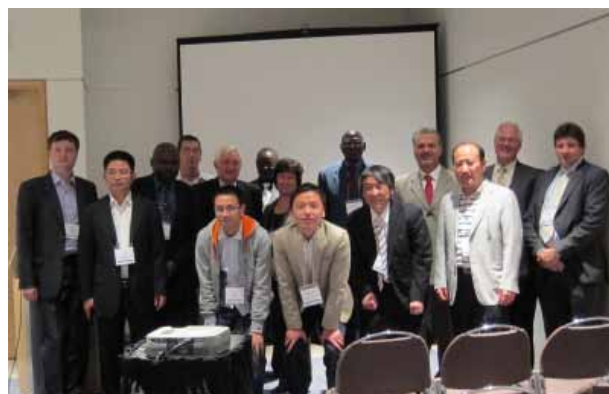
同会議の共催者であるインフォームド・デシジョンのためのジオマティクス (GEOIDE) はジオマティクス分野における研究プログラムを運営しています。GEOIDE ネットワークは1999年以来、7,900万カナダドルに及ぶ合計121の研究プロジェクトを行ってきました。このネットワークは、学際間の協力により新しいジオマティクスの研究開発の推進に役立っています。会議では研究プログラムでの多くの成果が発表されました。

カナダ天然資源省地図情報局長のシャクル氏が、標準に基づくカナダのSDI整備で連邦政府が責任を有するジオコネクションズ・ディスカバリー・ポータル等、カナダ空間データ基盤の概要を述べました。ジオマティクス及び地球観測に関する新しい連邦委員会が連邦の政策、相互運用性及び基盤に関する戦略的な方向性を確立しているところです。

自然環境保護のための北極SDIプロジェクトは、各国の国家地図作成機関間の協力及び開発プロセスにおいて注目を集めています。北極では、多くの経済活動で、気候変動の影響、生物多様性管理、生物資源の適用性及び持続可能な利用を理解するために、参照データの機能的な交換が必要とされます。

テイラー教授は、地球地図やGEOSS等、全球規模のデータ共有の運用上の交換における挑戦の経験を述べました。福島は地球地図の進捗状況と地球地図のユーザーに関する統計について説明しました。地球地図のダウンロード・エリアに存在するユーザーは39%です。ダウンロード・エリアを訪れた、またはこれから訪れるユーザーは38%です。この事実は地球地図がNSDIとして用いられ、旅行を含む国際的な研究に役立つことを示しています。

ISCGM 非公式会合が5月15日の午後に17名の参加により開催され、テイラー委員長は各国の地球地図整備を参加者に奨励しました。8カ国・5地域の地球地図の公開が報告されました。会合では8月のUNGGIMの議事案について議論されました。ISCGMはこの議事を歓迎し、国家地図作成機関は持続可能な開発のための地図作成で重要な役割を果たすべきことを確認しました。



ISCGM 非公式会合参加者

JICA 集団研修 環境地図（地球地図）作成コース開講 国土地理院

本年度も JICA 集団研修コース“Global Mapping for Sustainable Development”が始まりました。本研修では、GIS やリモートセンシングによる地球地図整備・更新・活用技術、ICTによる提供技術などについて学びます。

本邦で学んだ知見をもとに、自国の地球地図データの整備・更新、提供が継続して実施されるとともに、自国内の関係機関とも連携し、持続可能な開発のための基礎資料としての地球地図の活用が促進されることが目標です。

本年度は、ラオス、ネパール、セネガル、セルビア、タイの5カ国の国家地図作成機関から7名が参加しています。5月16日～8月1日まで国土地理院で研修生の受け入れを行います。

事務局から

ISCGM 第 19 回会合開催のお知らせ

第 19 回 ISCGM 会合は第 2 回地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会 (UNCE-GGIM) 会合に併せて開催されます。皆様の参加をお待ちしております。

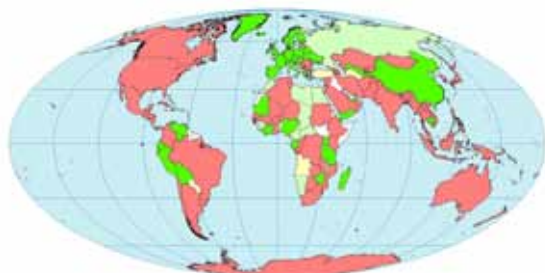
期日：2012年 8月 12日（日）

時間：10:00～16:00（予定）

場所：米国、ニューヨーク（ミレニアム UN プラザホテル）

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

2012年 3月 25日に前回のニュースレターが発行されて以降、レバノン、マリ、ザンビア（いずれも 5月 10日）の 3カ国（いずれも Ver.2）の地球地図が公開されました。また、コモロが 5月 18日にプロジェクトに参加しました。それにより、現在 166カ国 / 16地域が地球地図プロジェクトに参加し、76カ国 / 5地域（うち Ver.2を公開しているのは 9カ国 / 1地域）の地球地図が公開されています。



- データ公開中
- データ検証中
- データ作成中
- プロジェクト参加を検討中
- プロジェクト未参加

本図は参考のために作成したものであり、国境についてはいかなる組織によっても公認されたものではありません。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2012年

- ・ 8月 12日、ニューヨーク、米国
第 19 回 ISCGM 会合
- ・ 8月 13日～15日、ニューヨーク、米国
第 2 回地球規模の地理空間情報管理に関する
国連専門家委員会会合

- ・ 10月 29日～11月 2日、バンコク、タイ
第 19 回国連アジア太平洋地域地図会議

2013年

- ・ 2月 4日～6日、ドーハ、カタール
国連地球規模の地理空間情報管理に関する
第 2 回ハイレベルフォーラム



NEWSLETTER は地球地図情報紙として、世界中の国家地図作成機関や地球地図データ利用者など 1,200 名以上もの多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-8087

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org